

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)	
<p>○確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現するために、書く活動を重視するとともに適切な授業時数を確保しながら教科の重点を踏まえ、授業改善プランを推進する。</p> <p>○年間指導計画に沿って学習を進めつつ、児童の学習状況に応じてICT機器等を利用しながら個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革を図る。また、日々の授業実践の中で授業をデザインする8つの取組、特に「見通しをもたせる導入」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」「ICTの活用」を意識して授業をつくる。</p>	

授業改善の重点	
<p>「ICTの活用」</p> <p>○大型提示装置やChromebook等を活用し、児童の考えを共有する場面や共同作業に取り組む活動を設ける。</p> <p>「見通しをもたせる導入」</p> <p>○児童が主体的に学ぶことができる動機づけをするため、導入を工夫する。</p> <p>「価値ある対話の共有」</p> <p>○書く活動をどの授業の場面でも設定し、児童自身の考えを表出させる場面を設ける。</p>	

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読をする機会を増やす。量を増やすことで、語のまとまりや文章全体の構成や内容の大体を意識させる。 読書ビンゴや読み聞かせ、本の紹介等、意図的に本に触れる機会を与え、言語感覚を育成する。 伝え合う力を高めるために、全校で統一した話し合いの約束を掲示し、一貫性のある指導を継続して行う。 	<p>○音楽的な見方・考え方を身に付け、音楽表現へつなげる力を培うため、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら課題を見つけ、主体的に学ぶことができるよう、導入や振り返りを工夫する。ワークシートを活用し児童が学びの積み重ねを実感できるよう指導する。 対話的な学びを通して児童の学びを広げ深めるため、ペアやグループ活動を設定する。 児童が既得の知識や技能を生かしながら学びを深められるよう、系統的な学習指導計画や評価計画を実施する。 	<p>○計画的に野菜を栽培する体験活動や給食指導、調理実習を通して食育の指導をし、バランスの良い食生活を心掛ける大切さや食物に対する感謝の気持ちを育てる。</p> <p>○探究課題解決のためにコンピューターや情報通信ネットワークを活用しプログラミング学習を取り入れたり、図書室や見つけ発見室を適切かつ有効に活用したりすることができる知識・技能を育成する。</p>	<p>○思いやりの心を育てる人権尊重の教育を推進し、偏見や差別をなくし、社会の一員としての自覚をもつ子を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いや場面演技など、自分の考えを伝え合う活動を行い、考えを広げる。 ICTを活用し、児童の考えを伝えやすくすることで、考えを深める。 学級の実態に応じた教材の選択をし、学びを深める。
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<p>○社会的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なグラフや資料を用いて情報を読み取らせ、自ら情報を得る。 学んだ知識や資料を活用して、地理的・社会的な視点で課題を捉える力を養う。 視覚教材を活用し、児童自らが資料を取得し、意見を交流できる活動を取り入れる。 スライドやドキュメントを使い、調べたことをまとめ、発表する。 	<p>○造形的な見方、考え方を身に付け、表現する力を培うために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に自己表現できるような題材の設定をし、材料の魅力、活動への関心や意欲につなげる。 クラスメイトとの関わりにより、作り出す喜びを味わわせる。 自分の思いや考えをしっかりともち、制作に取り組めるように、個に応じた指導を充実させる。 	<p>○委員会活動の充実を図り、集団の一員としての自らの役割を自覚し、主体的に活動しようとする実践的な態度を育てる。</p> <p>○学級会などの話し合い活動を通して集団活動の基礎基本を身に付け、お互いのよさを認め合い、みんなのために働く喜びが分かる子供を育てる。</p> <p>○全学年特別支援学級や異学年との交流活動を設定し、誰とでも仲良く協力して、豊かな生活を築く態度を育てる。</p>	<p>○外国語活動を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年から高学年まで授業の同じ流れを作り、学習内容の定着を促進する。 中学年では、話すこと・聞くことを中心にALTと共同して授業を実践する。 児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。
	算数科	家庭科		
	<p>○数学的な見方、考え方を身に付けさせ、数学的活用能力を高めるために協働的、探究的学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの教材と学習後の診断シートを活用し、前学年までの既習事項のさらなる定着強化を図る。 全学年で少人数グループ授業を展開し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 集団討論の場を設定し、多様な考えに気づき、学びを深める。 	<p>○実践的、体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする工夫する資質、能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭、衣食住、環境などについて、日常生活に必要な基礎的理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるために家庭での調理の宿題や学校での裁縫などの実習の機会を設定する。 児童一人一人が、主体的に学習に取り組めるよう、板書やワークシートを工夫し、課題を解決する力を養う。 自分の周辺に意識が向くような導入を工夫し、意識をもって取り組む児童の育成を図る。 		
	理科	体育科		
	<p>○観察や実験結果を原因や新たな疑問などと関係付ける活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を振り返る時間を確保し、学んだことを生かして深く追及したり、ものづくりをしたりする活動を通して、理科の有用性に気付かせ主体的に学ぶ態度を育てる。 科学的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 	<p>○学習課題、流れ、児童の発表内容、学習のまとめを記録するボードやICTを活用してそれらを視覚化し、単元を通しての児童の学習を蓄積する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動を通して、気付いたことや学んだことを共有する時間(シェアリング)を設け、すすんで運動し、共に分かち合う心を育む。 学習カードに課題や学んだこと、友達からのアドバイスを記入させ、指導と評価の一体化を図る。 グループ学習を行い、互いのよい動きを見つけ、伝え合うことで、認め合う意識をもたせる。 		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
	<p>○生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立の基礎を養うために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動を多く設定し、知的好奇心や探究心を高める。 見通しをもたせる導入を通して、自分と身近な人々、社会及び自然の事象に対する「問い」をもたせ、問いを解決できる学習計画を児童と共に考える。 自分が身近な人々や、社会、自然に対し主体的に関わっていくことができる活動を取り入れ、認め合う・学び合う集団を形成する。 	<p>○外国語科を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年では、書くこと・読むことを取り入れ、毎時間繰り返すことで授業を実践する。 児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 		

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	価値ある対話の共有
	<p>○大型提示装置やChromebook等を活用し、児童の考えを共有する場面や共同作業に取り組む活動を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の円滑な学習を促すために授業者がプレゼンテーションソフトを使用した視覚的な資料を作成し、指導をする。(協働的な学び) スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、考えを共有する場面や共同作業に取り組む活動を設ける。(個別最適な学び) 	<p>○児童が主体的に学ぶことができる動機づけをするため、導入を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器や具体物を効果的に活用し、学習の流れやめあて、進め方を提示することで、「何をどのように学習して、何ができるようにすればいいのか」というゴールに向かって、協働しながら主体的に課題解決に取り組む意欲を高めていく。(協働的な学び) 1時間の授業で、最終的に何ができるようにしていればいいのかというゴールイメージをはっきりと共有するために、「説明することができる」「書くことができる」「音読することができる」「発表できる」等の行動的な言葉を使つためあてを明示する。(個別最適な学び) 	<p>○書く活動をどの授業の場面でも設定し、児童自身の考えを表出させる場面を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的やテーマを明確にして、スライドやスプレッドシート、ジャムボード等のICT機器を活用し、話し合いを充実させる。(協働的な学び) 児童が自分たちで考えたことをまとめたり、解決したりする場面を設定する。その際はノートを書く時間をきちんと取ること、よいノートを紹介し、典型化を図っていくこと、ノートをチェックし、評価をすること、低学年では、ノートのマス目と板書の文字数が同じになるようにすること等を配慮する。(個別最適な学び)